

岡山赤十字病院呼吸器内科における肺がん診療

第二呼吸器内科部長 佐久川 亮

呼吸器内科では肺がん診療に力を入れています

呼吸器内科では別所昭宏第一呼吸器内科部長以下7名のスタッフと1名の専攻医で診療を行っております。肺がんを中心とした悪性疾患、感染症、喘息/COPD、間質性肺疾患、気胸などの胸膜疾患など幅広い診療を行っておりますが、近年男女共に増加傾向にある「肺がん」について当院で行っている診療をご紹介します。

● 気管支鏡診断

適切な治療のためにはがん組織からの良質かつ十分な量の検体採取を行う必要があります。当院では超音波や迅速細胞診などを駆使して低侵襲かつ精度の高い検査が行えるよう工夫しています。

● 進行肺がんに対する薬物療法

がん組織を用いてドライバー遺伝子、PD-L1 発現を検索し、「抗がん剤」、「分子標的治療薬」、「免疫チェックポイント阻害剤」などの中から個々の患者さんにとって最適かつ最新の治療を行っております。臨床研究、臨床試験にも積極的に取り組んでおり、患者さんによってはより先進的な治療を提供させていただける体制づくりを行っております。

● 各診療科・多職種・家庭医との連携

患者さんに最適な治療、全人的な医療を行う上で連携は欠かせません。呼吸器外科・放射線科・緩和ケア科をはじめとした多くの診療科や看護師・薬剤師・ソーシャルワーカーなど多職種とも密な連携をとりながら診療を行っております。また、在宅療養支援が必要な患者さんについては家庭医の先生方にも積極的に連携をお願いしております。

ここ数年、コロナ禍の影響による検診受診控えによる発見の遅れが懸念されます。肺がんが疑わしい患者さんがおられましたら遠慮なくご紹介いただけましたら幸いです。